

第2回環境創造シンポジウムを開催しました。

平成30年12月2日(日)に、「第2回福島県環境創造シンポジウム～一緒に考えようふくしまの未来～」を開催しました。同日開催の理科自由研究発表会、三春町主催の子育て講演会とあわせて、大勢の方々にご来場いただきました。県内で活動する様々な団体とともに環境回復・創造に関する情報発信を行い、県民の皆さまと一緒にふくしまの環境の未来について考えました。

●パネルディスカッション

「ふくしまの環境の今・そして未来～未来志向で考える・ふくしまに“元気”を取り戻すアイデア」をテーマに、幅広い職業・年齢のパネリストから震災と復興の現状や30年後の福島に向けてどう暮らしていくかのアイデアについて発言いただきました。

ファシリテーター：伊藤博英氏(NHKアナウンサー)

パネリスト：白鳥久美子氏(たんぽぽ・お笑いタレント)、西芳照氏(サッカー日本代表専属シェフ)、大場恭子氏(日本原子力研究開発機構)、

菅野クニ氏(ニコニコ菅野農園)、渡邊穂乃夏さん(安積黎明高校)



パネルディスカッション

●ブース展示

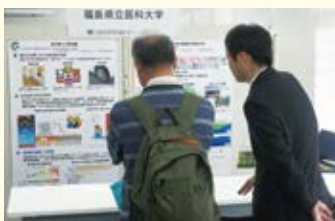
福島県環境回復・創造への取組を行っている団体に出展していただき、来館者の方々に取組を紹介するとともに、出展者同士の交流を深めました。



国立保健医療科学院と
京都大学複合原子力科学研究所の
合同ブース



放射線医学総合研究所(左)と
NPO法人あいんしゅたいん(右)



福島県立医科大学



環境創造センター環境動態部門



森林総合研究所



環境創造センター放射線計測部門

コミュタン福島の展示がリニューアルされました

●研究紹介

環境創造センターでは福島県、日本原子力研究開発機構(JAEA)、国立環境研究所(NIES)の研究チームが環境放射能を最新科学で監視しています。展示室「探るラボ」の端末では、研究内容と担当研究者の素顔をご紹介します。無人飛行機からコケの研究まで、こんな事まで調べるのか、と幅の広さに驚かれるのではないのでしょうか。環境回復・創造に関する研究は多岐に渡ります。順次まだ紹介できていない研究テーマも追加予定です。



新聞縮刷版と研究機関のコンテンツ

●あの時の新聞!

震災と原発事故の記憶を残すため、2011年3月の福島民報新聞縮刷版を「探るラボ」の端末でご覧いただけます。3月11日までの紙面は、震災の翌日から一変します。新聞のページをめくっていくと、同時にタイムスリップしたような感覚。そして震災後1週間もするとページ数がたった8ページに減り、当時の新聞社のご苦労がうかがわれます。

また、同じ端末でJAEAのコンテンツ「放射線と地球の旅」教えます みんなが知りたい福島の今やNIESコンテンツ「野鳥のこえからわかること」「KIKITORI-MAP」もご覧いただけます。



研究内容と担当研究者の紹介

●外国語対応

「ふくしまの環境のいま」放射線ラボ「環境創造ラボ」の映像や展示等に外国語(英語・中国語・韓国語)の解説等を加えました。海外からの旅行者の方にもぜひ見学いただきたいと思います。



QRコードを読み込むと外国語の解説を見ることができます。



外国語のテロップが流れます。

研究紹介

環境創造センターでは、福島県の環境回復・創造に向けて「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4部門に分かれて、日々研究を行っています。今回は放射線計測部門放射線計測グループの研究について紹介します。

空間線量率及び放射性物質の測定技術に関する研究

原子力災害により、環境中に放射性物質が放出され、各地で高い空間線量率を示す場所が見られるようになりました。放射線は目で見ることができず、どこに高い空間線量率を示す場所があるか分からないため、住民に対し大きな不安を与えています。このため、本研究では空間線量率の分布を可視化する技術の開発を行ってきました。

現在、県内各地でサーベイメータやモニタリングポスト等での定点測定、放射能の測定器を車両に搭載して走行しながら空間線量率を測る走行サーベイが行われていますが、定点測定や走行サーベイでは、空間線量率を把握できるのは測定地点近傍や路上に限られます。

このため、公園や遊歩道、住宅地の路地、森林などで空間線量率の分布を調査するために、歩きながら空間線量率の分布を把握する歩行サーベイ技術や無人航空機を活用した測定技術について検討を行っています。



歩行サーベイ技術



無人航空機を活用した空間線量率測定技術

放射性核種の簡易・迅速な分析法の開発

福島県が行う放射能分析の方法は、文部科学省が作成する「放射能測定法シリーズ」(いわゆる「公定法」)に基づいて実施しています。公定法は分析精度が高いというメリットがありますが、分析する核種によっては、危険な薬品を使用したり、分析に時間がかかったりというデメリットもあります。

そこで、放射線計測グループでは、社会的関心が高いトリチウムとストロンチウム90に着目して、分析法の開発・検討を進めています。

トリチウムに関しては、東京電力(株)福島第一原子力発電所から周辺環境への影響がないかどうかをより詳細に調べるため、低濃度のトリチウムを分析できる「トリチウム電解濃縮装置」や生物の組織に取り込まれたトリチウムを分析する「有機結合型トリチウム(OBT)の分析法」を導入し、現在分析の精度確認や分析法の改良を進めています。

ストロンチウム90に関しては、公定法では1ヶ月程度の分析時間を要し、操作も複雑であることから、福島大学のグループが開発した「ICP-MSを用いたストロンチウム90の迅速分析法」を導入し、緊急時等に迅速な分析と情報提供ができるよう、運用に向けた検討を行っています。



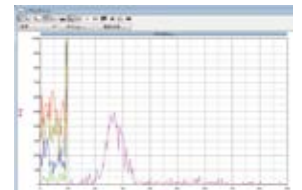
電解濃縮装置



OBT分析用試料燃焼装置



ICP-MSを使用したSr-90分析



モニタリング結果の評価・活用に関する研究

福島県では日々環境放射能のモニタリングが行われ膨大なデータが蓄積される一方、必要なデータを検索しにくくなることから、県民等がデータを利用しやすい環境の整備が求められています。

このため、分かりやすく、利用しやすい環境を提供するため、放射能測定マップの改良を行いました。

また、様々なモニタリング手法による測定値の違いを評価して同一の物差しで表示するモニタリング結果の統合化の研究、統合化したモニタリング結果を基に、原子力災害の発生後から現在に至る空間線量率分布の推移を可視化するための研究にも取り組んでいます。



<http://fukushima-radioactivity.jp/>

SEARCH 福島県放射能測定マップ GO

福島県環境創造センター

福島県の環境回復・創造に向けた「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の業務を行っています。
環境創造センターホームページより、県内市町村の空間線量、大気環境等のモニタリング情報を御覧いただけます。



福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」 入場無料

TEL.0247-61-5721 FAX.0247-61-5727

○開館時間 9:00~17:00

○休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)・12月29日~1月3日

○売店、キッズスペース、授乳室、和室(飲食可)もあります。

ホームページ <https://com-fukushima.jp/>



車をご利用の場合

磐越自動車道船引三春ICより約5分

電車をご利用の場合

JR磐越東線三春駅より車で約12分

三春町営バスをご利用の場合

三春駅~環境創造センター(コミュタン福島)へ

コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料 年末年始(12月31日~1月3日)を除き毎日(1日4便)運行



田村西部工業団地内、ドームが目印です。